



みずみどり

2019年 5月15日 第132号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.cocan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124

## オタマジャクシ達よ 今年こそカエルになってね

昨年、トンボ池に足繁く通って観察して、たくさん生まれたオタマジャクシが大食漢のカルガモにほとんどを食べられてしまったところを見ました。

今年、大きなお世話と言われそうですが、オタマジャクシの保護作戦に出ました。オタマジャクシの一部を池裏の水路とプラスチックのコンテナに移しました。一部を会員が家で育てることになり、またオタマジャクシをほしいと言った子どもにも持たせ、カエルになったらここに連れてきてねとお願いしました。裏の水路のオタマジャクシはすぐにいなくなりました。ヘビに食べられたのかもしれませんが。コンテナのオタマジャクシは栄養が足りないのかやや小さい。

石橋さんがスズメ避けにテープを張り巡らしているのを見たので教えてくれました。カルガモはからだ大きいので、テープが張ってあると飛び立ちにくいので嫌がるかもしれませんが。とりあえず張ってみました。カルガモはテープの下をくぐり抜け、テープとテープの間から飛び立ちました。失敗。

次の作戦、竹の先端一枝が分かれているところを池の上に被せてみました。これならカルガモは入りにくいと思ったが・・・コサギには竹がじゃまかもしれませんが、カルガモには効き目がなさそう？でした。

5月12日、オタマジャクシが生き残っているところは湿地のように水がヒタヒタな場所です。カルガモには採餌しにくいかもしれませんが。橋の右側と左側の広いところにいたオタマジャクシはいなくなりました。広い池の隣の山側の棚田のオタマジャクシもいなくなりました。どちらも深い池です。

雨が降ると池の水位も上がります。オタマジャクシは5月下旬にカエルになります。生き残ってほしいです。



# オタマジャクシをめぐる 生き物の世界

会報みずみどりでは、度々オタマジャクシのことを取り上げています。トンボ池が出来て20年、毎年早春に、1度に数千個の卵を産むと言われるカエルが何匹も集まり、産卵していきます。しかし豆ガエルを見たのは2、3度だけ。いったいオタマジャクシの敵は誰か、毎日観察できないので、断片的な観察から、いろいろ推理していました。

カエルはたくさん卵を産みますが、オタマジャクシから豆ガエルになるのは十数匹？、大人のカエルになれるのは1、2匹と聞きました。ほとんど食べられるのがあたりまえの命です。それでも全滅はひどすぎる、浅くしてみたり、水草を植えてジャングルのようにしてみたり、環境改善を試みましたが、うまくいきませんでした。以前から目撃していましたが、去年はカルガモがやってきては大量に残らず食べていくのを確認し、主犯のカルガモ対策を考えました。カルガモにとってトンボ池はエサ場で、子育てによさそうな環境です。

耳に傷のあるノラ猫がときどき池のそばに座っています。ネコはオタマジャクシではなく、カルガモに興味がありそうで、カルガモは警戒するでしょう。防犯効果がありそうです。私はこのノラ猫に会うと挨拶をしています。

オタマジャクシは何を食べているのでしょうか。水面で口をぱくぱくしているのはプランクトン？を食べているのでしょうか。先日オタマジャクシが水面に浮いている小さな毛虫をつついていました。オタマジャクシが頭を寄せ合ってヒトデのような形をしていることもありました。みんなで大きな何かを食べているようでした。自然の世界はいろいろですね。



間違っているかもしれませんが、少しずつわかってきたことを、紹介しますね。

1 カエル（この池にくるのはヒキガエルだけです）は、野鳥が歩いて入れるほどの浅いところには卵を産まない。（理由：浅いと干上がってしまう心配があり、サギや、スズメやムクドリに食べられるから？）

2 カエルはトンボ池の深いところに卵を産むが、ため池には産まない（理由：ため池の垂直護岸ではカエルが上陸できないため）。

3 カルガモ(写真右)は卵やオタマジャクシを効率よく食べるので、カルガモの影響は大きい(昨年全滅させた主犯と思われる)。(今年赤塚公園徳丸緑地の池に大量の卵が産み付けられていたが、後日カルガモが飛来し、オタマジャクシはいなくなった)。最近カルガモはオタマジャクシのなくなった広い池で逆立ちして池底をあさっています。底にいる生き物(ザリガニなど)を探しているのかもしれない。



4 ザリガニがオタマジャクシを襲うのを何度も見ました。以前は会のメンバーはザリガニ主犯説でした。ザリガニの食欲もバカになりません。

5 子ども達がすくっていく。子ども達は天敵かもしれないが、カエルになったらまた戻してくれれば保護者です。

6 ミシシippieアカミミガメ(写真下) 昨年もオタマジャクシの頃に出現(誰かが放したのか、それともため池からやってきたのかもしれない)。今いるカメは小さくて15cmほど。人が近付くとポチャンと音を立てて水に飛び込み、ときどき水面に顔を出して呼吸し、ときどき陸に上がって甲羅を干します。のんびりしていてエサ取りは非効率に見えますが、雑食性で藻類や水草、水生昆虫、ザリガニ、エビ、貝類、魚類等さまざまなものを採食すると書いてあります。水面で口を空けて浮かんでいて、オタマジャクシが口に入ったのを見ましたが、どちらかという池底が得意そう。環境省の要注外来生物(外来生物法)および世界の侵略的外来種ワースト100にあげられています。小さな生き物にとって手強い相手です。赤塚ため池にも大きいのがいて池の島の水際で甲羅を干しています。



7 ヘビ(写真右)： トンボ池に小さなヘビ(ヒバカリ)がスーッと泳いでいるのを何度か見かけました。ヒバカリはオタマジャクシが好物だそうです。トンボ池の裏の山裾や水路にはヒバカリだけでなく1m位の大きなアオダイショウが住んでいます。アオダイショウはオタマジャクシのような「小もの」よりも大きなカエルのほうが好物でしょうね。



写真は山田さんが大仏下のトンボ池

で4月末に撮ったヒバカリです。この池のオタマジャクシもいなくなりました。ヒバカリが食べたのかもしれませんが。

8 コサギやゴイサギ： トンボ池にコサギやゴイサギの幼鳥がいたことがありました。サギは浅いところで餌を食べます。サギ類も小さなオタマジャクシをチョコチョコつまんでいないで、ザリガニを食べてくれるとありがたいのだけれど。

9 ムクドリなどの野鳥が水浴びにきたついでに、食べていくかもしれません。

10 ヤゴがオタマジャクシを食べた(オタマジャクシを疎開させた猪鼻さんから4月28日のメール)

オタマジャクシを2つのスイレン鉢で飼っていたが、片方のおタマが最近少なくなってきたと思っていたのだが、今朝理由が判明。ヤゴが喰っていたのだ。後ろ足が生えてきたところでヤゴより大きい位だが、喰われてしまうのですね(猪鼻)。



トンボ池で、よく聞かれることがあります。

1 最近カエルを見なくなったように思いますが・・・

年によって変化があると思いますが、私も今年は少ないように思いました。池に来たカエルも少なかったし、卵塊も5個で小さいものが多いようでした。私の住む中台で早朝や夜にカエルが歩いているのをよく見かけましたが、今年はほとんど見ませんでした。車に轢かれたカエルを見たのも今年は2回だけ。そんなことから、オタマジャクシの保護も必要かなと考えました。

2 こんなにたくさんのオタマジャクシが全部カエルになったらよくないではありませんか。確かに大量のオタマジャクシがカエルになるのは不自然です。今回の保護実験でもかなり喰われて数を減らしています。もし、無事にカエルになったとしても、1cm位の豆ガエルが上陸する

や、ムクドリの子が舞い降りてきて片っ端からついばんでいるのを見たことがあります。だから池の周りに身を隠せる藪も必要です。そんな苦難を乗り越えて、数年後、大人のカエルになって池に来て卵を産みます。

### 3 ヒキガエルは、いつもどこにいるの？

カエルという水辺の生き物と思いますが、産卵の時だけ水辺にきます。カエルは両生類の仲間です。両生類とは、水中で産卵し、オタマジャクシはエラ呼吸で水の中ですごします。変態してカエルになると肺呼吸になり、陸上で生活します。両生類とは水陸両方で暮らせるという意味ではなく、両方の環境が必要な生き物なのです。

ヒキガエルは夜行性で昼間は茂みや落葉の下などにいて、夜になると出てきて昆虫やミミズを食べます。なので昼間見ることはあまりありません。

### 4 ヒキガエルは水の中が好き？

自宅近くにあるコンクリート池は、垂直の壁で水面から池の縁まで40cmほどあります。

写真右は、何度もジャンプを繰り返しても、この池から陸に上がれず困っているカエルです。

この池で死んでいるカエルを見てから、死にかけてカエルを何匹か助けたことがあります。誰かが捕まえたカエルを池に投げ込んだのでしょうか。「カエルは池にいるはず」と思って悪気はなかったと思いますが、カエルにとって大災難です。田んぼの用水路



がコンクリートになり、カエルが脱出できないといった話も聞きます。ドイツでは、溝に落ちたカエルが脱出できる工夫がされ、高速道路によって生き物の移動が妨げられないよう配慮されているという話を聞きました。生き物達のバリアフリー対策ですね。意外にもヒキガエルのジャンプ力は弱いのです。アマガエルは、足に吸盤があって木に登ることも出来ます。

たくさん生まれたオタマジャクシが、気がついたらいなくなって、どうなったのだろう、という疑問がありました。ヒキガエルは絶滅危惧種でもなく、珍重される生き物でもありません。かといってどこにでもいる生き物でもありません。卵を産む水辺も必要だし、生きた餌を食べるので、餌となるミミズや昆虫がいる落葉や草が茂った環境が必要です。ありふれた生き物の生活にも関心を寄せてほしいです。小さな生き物達の場所としてつくったビオトープですが、自然はコンクリートの水槽よりも危険が多く、困難をくり抜けた個体が大人になるのですね。(坂本 郁子)。

# キジバト の春

ふと見上げたら、高い木の枝にキジバトが2羽、仲良く並んで止まっていました。

3月24日、暖かい日、そろそろ結婚しようか、というところでしょうか。

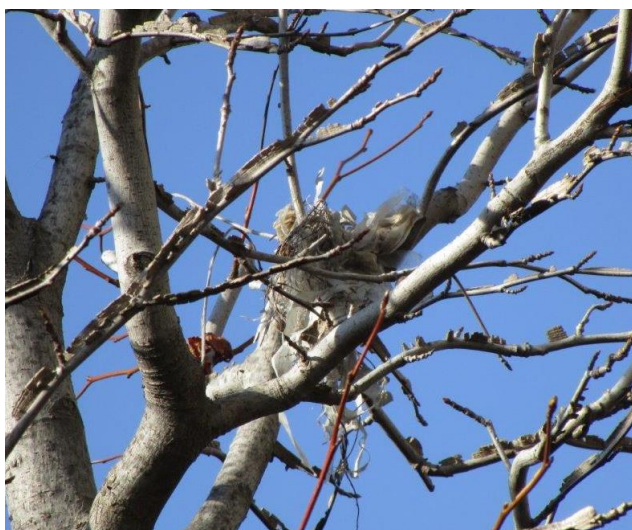
キジバトは、お寺の境内にいる鳩ぽっぽと違います。黒と赤褐色の鱗状の模様がキジに似ていることからつけられた名前です。以前は山鳩とも言われ、山にいる野鳥です。



都会でも緑が増えて、キジバトやシジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリなどの野鳥を見かけます。彼らは私たちのすぐ近くで卵を産み、子育てをしています。昨年街角のあまり大きくない木でキジバトが子育てをしている気配があり、冬になってから巣を見に行ったら枝が剪定されて残っていませんでした。キジバトは小枝を使って雑な巣を作ります。

20年近く前の観察会のこと、松月院通りの葉を落とした街路樹にキジバトの巣が2つもあって驚いたことがありました。車も人も多い通りです。

写真右は、ヒヨドリの巣の残骸です。巣作りしている最中は全く気がつきませんでした。環8道路沿いのあまり大きくない街路樹で、巣材はビニールテープなどが廃物利用されています。



## 日暮台公園をフィールドに崖線樹林地の将来を考える勉強会をします

台風で公園の木が倒れて地下鉄が不通になる事件があったからか、公園の木の伐採や、強剪定された木が目につきます。緑の中を歩いていても、すがすがしいと感じると同時に、「不自然な樹形に違和感や痛々しさ」を感じることもしばしばです。公園整備されて数十年経ち、大きくなりすぎた木が困りものになったようです。大きな木に対する感情は、近所に住む人と遊びに来る人では違うかもしれません。



私たちが観察を続けてきた日暮台公園（写真上）でも大きな木が何本も伐採されました。5月初めに調査したら、林内にギンラン、キンランが咲いていました（写真下）。これらのラン科植物は木に寄生している菌類と共生している寄生植物なので、この場所でのみ育ち、移植できません。キンラン、ギンランがこのあまり豊かでもない公園樹林地で咲くということは、地面の自然が生きている証だと思います。



そこで、公園管理に関わる行政職員と区民が一緒に、安全で自然豊かな崖線樹林地を目指して、現状を観察し、課題を整理して、樹林地の将来像を検討するための勉強会を開きます。勉強会は、今回以降も他の樹林地調査や専門家の話を聞くなど継続して実施する予定です。関心ある方のご参加をお待ちしています。

### テーマ

## 安全で自然豊かな崖線樹林地を未来に引き継ごう

日時 第1回 6月21日（金）10時～12時

第2回 6月28日（金）10時～12時

場所：エコポリスセンター・日暮台公園（前野町5-19）（フィールドワーク）

第1回集合場所はエコポリスセンター

講師：1回目（公財）埼玉県生態系保護協会 統括主任研究員 高野 徹

2回目（公財）埼玉県生態系保護協会 事務局長 堂本 泰章

問合せ いたばし水と緑の会 坂本（090-4618-1295）

# 活動のお知らせ

運営委員会：5月25日(土) 12:30~13:30

6月22日(土) 12:30~13:30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します(ラーメンしらかば)。

連絡先；下記事務局または坂本(090-4618-1295)

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

7月20日(土)の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田(3969-7124)まで

## 1 赤塚ピオトープ(赤塚トンボ池、バッタ広場)の手入れ

5月25日(土) 10:00~11:30 バッタ広場の手入れ

6月22日(土) 10:00~11:30 バッタ広場の手入れ

集合は赤塚トンボ池前(板橋区立美術館そば)(予定を変更する場合があります)

雨天の場合は中止または延期します。連絡先：事務局または坂本(090-4618-1295)

## 2 赤塚城址自然観察会

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。でも生きものを持って帰らないでね。小雨でも実施。連絡先：事務局または坂本(090-4618-1295)

6月9日(日) 10:00~11:30

7月14日(日) 10:00~11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料(保険には加入しません)もってくるもの：あれば双眼鏡、虫眼鏡、

## 3 日暮台公園樹林地の観察

6月1日(土) 10:00~11:30      7月6日(土) 10:00~11:30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本(090-4618-1295)

### ●ピオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺(赤塚トンボ池)や草地(赤塚公園バッタ広場)などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」(隔月発行)お送りします(年会費2000円：振込先は表紙に記載)。